

広報

# こしがや

9月15日

昭和51年(1976) No.529

編集

越谷市役所企画部広報課



いつまでも  
お元気でね

「敬老の日」にちなみ、さる9月10日、市内最高齢者で蒲生3丁目に住む金子婦きさん(96歳6か月)の長寿を祝って、市と県が肩かけ、ひざかけ、寿まといをプレゼントしました。

若いときから働き者でとおり、9人のお子さんを育てた婦きさんは市長に長生きのひげつはとたずねられ、「なんでも食べて、決して食べ過ぎをしないことですよ」と嬉しそうに帰き式健康法を披露しました。

老 人 福 祉

市長 黒田 重晴

(61)



今日は敬老の日です。越谷市では、例年この日を中心として、各地区など七十歳以上のおじいちゃんおじやんを招いて、婦人会などの協力をして、だいたいで敬老会を催していました。

ところが、今年はこの敬老会をとりやめ、七十五歳以上のじいじやんだけを、市立体育館に招待して敬老会を行なひましたため、大きな波紋を呼び、市議会の一般質問にまでとり上げられました。曰く、「福祉の後退ではなくか?」と。

福祉の見直しが論議され、「老人福利の無料化はやめられた!」と大蔵省あたりが、老人医療の無料化政策で、「誤解されるのも無理からぬ」とですが、越谷市が敬老会を縮小したのは、老人福祉を後退させる目的で行ったのではなく、敬老会に参加するおじいちゃんの人数が増加し、各地区ごとにわけて、十日間も福祉会館で敬老会を行っても、まだ入りきれないくなってしまったこと、交通事情の悪化で、市の専用バスでの送迎にも荷物の時間がかかり、参加者の健康問題などいろいろむづかしい問題がでてしまったため、とりあえず方法と場所をかえた暫定的なものなのです。

今後は、南越谷に進めてくるコミュニティセンターの大ホールに、七十歳以上のじいじやんを招待し、今まで以上に盛大な敬老会を開催したいと思いますので、今から楽しみにお待ちいただきたいたいと存じます。

それについても、憲法に耐えなべの意図する、大蔵省や一部国民党関係者の心ない福祉に対する考え方です。かつて、自民党政府のある大臣が、「老人福祉」を使るのは、枯れ木に肥料をやるものだ、と発言し、大き

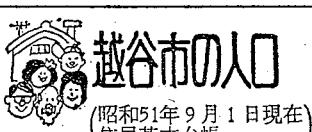
な批判をあびましたが、そんな感覚や思想の政治家、行政マンがいまだに残存するることは残念なことです。

そこで私たち革新市長会では、去る八月の総会で、大蔵省が意図している老人医療無料化廃止に反対したとえ新市長会に参加する各市では、絶対に廃止は後退をさせず、さらに老人福祉をはじめ福祉行政の充実強化に前述することを決議し、誓い合いました。

敬老の日をめらますが、敬老の日の意義は、長寿を祝い、永く社会につくしたおじいちゃんをやまび、励ますとともに、老人自らが周囲から甘やかされ、楽しませてもらつて喜んでいるだけなく、自ら進んで社会と協調し、社会に貢献して若い人達から親まれ、尊敬される老人になることを

自覚する日、でもあると思います。いつもスポーツのことはかりで恐縮ですが、去る五日は蒲生警部町会の運動会、七日には家庭婦人の競技大会に出席しましたが、七十歳近くおばあちゃんが、八十歳走りハサシで出場し、またトレー・イングシャツ姿でさつそろとじママさん達と一緒にラケットをさきってプレーする姿を見て、ほんとうにうれしからました。

おじいちゃんの皆さん、いつまでも若々しくていただきたいと思ります。



越谷市の人口

(昭和51年9月1日現在)  
(住民基本台帳)

総人口	19万9878人	前月比	384人増
男	10万0914人	205人増	
女	9万8964人	179人増	

世帯数 5万7246世帯 124世帯







